

今号では、会員たちがどんな思いで活動しているのかを、お届けします。題して

## 『私の好きなビオ・トープ』

★山や川、草原や湿原は、自然淘汰や植物の遷移によって、歳月をかけて徐々に徐々に移り変わっていくものですが、自然災害や人の手によって、短時間で変わった自然もあります。ビオトープ・イタンキは、会員が知恵を絞り、汗をながして平成18年から造成に着手して、平成25年頃迄の年月をかけて、失った自然を再生させた、湿原と草原、そして小さな雑木林です。

春の雪解けと共にフクジュソウやエゾリュウキンカが、咲き始め、山野草は、四季折々に花をつけ、見る人の心を和ませてくれます。

水辺には、トミヨやドジョウが泳ぎ、運がよければミズカマキリやザリガニに遭遇できるかもしれません。

草原には、鳥やトンボ、チョウやバッタがいますが、目玉は、夏の夜に光を放つホタルです。

又、年に、数回行われる子供達の自然体験学習には、会員（高齢者）も参加。子供達の元気な行動に、ハラハラ、ドキドキ、そして“なにすねん”と思いつつも、ワクワクして見守っている、実に楽しい時間でもあります。皆さんも、是非、ビオトープに来て、見て、触って、自然を全身で感じてください。（山オヤジ）

★＜3月～4月＞雪が解けて長かった冬も終わりを告げ池の中も春です。オタマジャクシの躍動が始まり、やがて賑やかにゲロゲロと……。そして、周りでは、潮風を受けながら、逞しく生きる草たちが目を覚まし、やさしく花を咲かせます。

＜7月～8月＞ザブ～ンザブ～ン、海浜の波音を聴きながら、闇夜の中で、ホタルを探して歩くホタル観賞会は、まさしく原点（昔）にかえります。又、この季節は、自然体験学習に訪れる児童たちの元気な姿にお目にかかれるのも大好きです。子供らしい無心な声を聞きながら、私は、たくさんのパワーをもらい、元気になります。

自然の中で、生きもの全部が共生できる場所が「ここにある」そう感じる空間ビオトープ・イタンキが大好きです。（田中 道江）

★子供達が小学生のころ、トンギョを獲りに行くとバケツを持って行ったり、足の出始めたオタマジャクシが、カエルになるのを待っていたらいつのまにか逃走されていたり、忙しくも楽しかった子育て時代の一コマを思い出します。汗することもいとわず豊かなビオトープを目指して作業する仲間達に教わりながら、小さな生き物たちと触れ合えるのが嬉しいひとときです。（渡邊英子）

★私が幼少期を過ごしたのは、室蘭市舟見町。当時は車も少なく、海や山の景色を見ながら遊んでいました。印象深いのは土手を登り降りしたり、浜辺でガラスの石（今で言うシーグラス？）を拾った事。

このような記憶は、おとなになっても忘れないようです…小学生の頃は、植物や岩石等々にも目が向いていました。現在の住まいは輪西・東町地区ビオトープのそば。子育て中は頻繁に、イタンキ浜へ散歩に出かけたものです。鳴り砂を楽しんだりもしました（裸足で歩くと夏は熱い！）

今では沢山の池ができ、以前とは違った景色を見ることができます。

『私のお気に入り♪ビオトープ・イタンキ』

① 早春…ヒバリのさえずり・静かな水面（みなも）の煌めき、草木が伸びきっていないので美しい。

② 夏の夜…ホタルの小さな輝き・姿の見えないカエルの大合唱。灯りを消した時の星の瞬き。

子どもたちには、是非見てほしい光景。おとなには、昔の記憶を思い出せるような場所…

室蘭には、こんなに素敵などころがある！これからも、自慢していきます。（菊地 敦子）